

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 ① 筆跡 ② 目的 ③ 学問 ④ 命令
- 2 おぼえ ① 地位 ② 悪名 ③ 気位 ④ 評判
- 3 つとめて ① 早朝 ② 夕方 ③ 夜更け ④ 翌日
- 4 つごもり ① 月末 ② 中旬 ③ 月初め ④ 時節
- 5 こころ ① 正気 ② 病気 ③ 怪我 ④ 性格

「B」次の文の（訳）の「 」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 ことのついででありて、人の奏しければ、聞こしめしてけり。（大和物語）
（訳）何かの「 」があつて、ある人が奏上したので、（帝は）お聞きになった。
① 因縁 ② 命令 ③ 機会 ④ 行い
- 7 いとはつらく見ゆれど、志はせむとす。（土佐日記）
（訳）ひどく薄情に思われるが、「 」はしようと思う。
① 贈り物 ② 決断 ③ 計画 ④ 言い訳
- 8 うつつにも夢にも人にあはぬなりけり（伊勢物語）
（訳）「 」においても、夢においても、あなたに逢わないのでしたよ。
① 現実 ② 空想 ③ 未来 ④ 過去
- 9 久しくとどまりたる例なし。（方丈記）
（訳）いつまでもとどまっている「 」はない。
① 道理 ② 例 ③ 理由 ④ 時間
- 10 今日はよろづを捨てて、参り候ひつるなり。（宇治拾遺物語）
（訳）今日は「 」を投げうって、参上したのです。
① めんどうなこと ② さまざまなこと ③ 急ぎのこと ④ 楽しいこと
- 11 寺にたうときわわざなる、見せたてまつらむ。（大和物語）
（訳）寺で尊い「 」をするといふことだ、お見せ申し上げよう。
① 寄進 ② 演舞 ③ 造営 ④ 仏事
- 12 才をもととしてこそ、大和魂の世に用ゐらるる方も強う侍らめ。（源氏物語）
（訳）「 」を基本としてこそ、実務能力が世間に重んじられるということも確実になるのでございましよう。
① 和歌 ② 家柄 ③ 人格 ④ 学問
- 13 我を知らずして、外を知るといふ理あるべからず。（徒然草）
（訳）自分を知らないで、他人を知るといふ「 」があるはずがない。
① 道理 ② 前例 ③ 理想 ④ 論理
- 14 火をつけて燃やすべきよし仰せ給ふ。（竹取物語）
（訳）火をつけて燃やせという「 」をご命令になる。
① 方法 ② 旨 ③ 計画 ④ 時刻
- 15 たよりの人に言ひつきて、女は京に来にけり。（大和物語）
（訳）「 」の人に頼んで、女は都に来たのだった。
① 地元 ② 高位 ③ 縁故 ④ 宮中

